

# 展示の方向性について

第2回 高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会 資料

平成27年12月15日

# 1. 展示計画にあたっての前提 上位計画より

## 1 震災津波伝承施設のコンセプト

追悼・鎮魂の思いとともに、震災津波の教訓と育まれた絆の大切さを伝え、防災意識を高める

## 2 「伝承のあり方」の方向性



## 3 展示の基本方針

東日本大震災の実相と教訓を世界、そして未来へと伝承するために、  
ガイダンス機能を担う屋内展示と被災現場に身を置きながら学んでもらう屋外展示（震災遺構等）を整備。

### 屋内展示

#### 日本を代表する 震災津波の伝承・学習拠点としての展示

- ・東日本大震災について誰にも分かりやすく伝える。
- ・震災津波の恐ろしさ・いのちの尊さを伝える。
- ・起きた事実、行動の事実、復興への歩みを伝える。
- ・震災津波の経験から学んだ教訓を伝える。

#### 被災前のコミュニティの姿・営みを 記憶する装置としての展示

- ・失われた故郷の姿、連綿と続いてきた営みを記憶し、後世に継承。
- ・三陸地域の震災津波災害の歴史、地域に育まれた防災文化について紹介。

#### 公園・町・三陸各地へと誘う ゲートウェイとしての展示

- ・公園、新市街地、（仮称）一本松記念館等を紹介し、地域への回遊性を醸成。
- ・県内被災地の復興状況を伝えるとともに、各地の震災遺構やメモリアル施設へと人々を誘う。
- ・各地域の観光情報を提供する。

### 屋外展示（震災遺構等）

#### 震災の事実を物語る震災遺構

- ・震災の事実を記憶する貴重な実物資料として、震災遺構を見学可能な状態に整備するとともに、津波に破壊された橋の残骸等、巨大な被災物を展示。
- ・いながらにして学ぶことができるIT等を活用した解説システムの構築を検討。

#### 震災前の町の記憶を伝えるスポット

- ・かつての町割りの跡や道路跡など、震災前の町の記憶に出会える場を整備。
- ・IT等を活用した解説システムの構築を検討。

## 2. 震災津波伝承施設のミッション

展示計画を検討するにあたって、その前提となる震災津波伝承施設が果たすべき社会的使命＝ミッションについて、以下のように整理する。

### 1 東日本大震災及び過去の津波災害の記憶をかみしめ、悲劇を再び繰り返さないためにその事実と教訓を伝承

- 東日本大震災の事実とその経験から得た教訓を、防災・減災文化に高め、幅広い層に対して、将来に向けて伝えつづける。
- 明治三陸津波、昭和三陸津波と今次津波災害の経験をかみしめ、同じ悲劇を繰り返さないという意志の共有化を図る。
- 上記を実現するために、展示、教育・交流活動をはじめとして、調査・研究、アーカイブの構築、人材育成、ソフト開発等、必要となる諸活動に取り組む。

### 2 災害を乗り越え、復興へ向けて力強く歩んでいく姿を世界に向けて発信

- 災害を乗り越え、復興を成し遂げようとする姿勢の象徴として、復興に向けて力強く一歩一歩んでいる地域の姿をリアルタイムで広く発信しつづける。
- 災害を乗り越えて、地域の豊かな自然とともに生きていくための知恵や、自然と人々とのかかわりの新たな姿を考える場とする。

### 3 三陸沿岸被災地を結ぶ震災津波伝承ネットワークの形成と地域活性化促進

- 三陸沿岸被災地の12市町村を結ぶ震災津波伝承ネットワークを形成し、連携活動や協働活動を推進。三陸地域が一体となって震災津波伝承に取り組み、防災・減災文化を創造する基盤をつくる。
- ゲートウェイとして、三陸沿岸の各地に誘う情報提供を行うなど、各市町村の地域活性化を支援する。

**防災・減災文化の創造**

# 3. 展示の特長・展示にあたっての視点

## 1 展示の特長

### 未来の命を守るために 幅広い層に伝える・ながく伝え続ける展示

多くの尊い命を奪い、産業や生活の基盤に甚大な被害をもたらした東日本大震災。低頻度大災害という性格を持つ津波災害から将来の命を守るために、この経験、教訓をできるだけ多くの人たちに伝承すること、できるだけ長く伝え続けることは、震災伝承施設の重要な使命である。そういった観点から展示は、以下のような点に留意して計画するものとする。

- 子どもから高齢者までの年齢層、外国人や身体の不自由な方々など、幅広い層に対応するユニバーサルな視点を持つ展示。
- 時代が進展しても色褪せない、未永く伝えることができる展示。



### 思いを共有するために 地域とつなぐ・人とつなぐ展示

追悼・鎮魂の思い、未来の震災から命を守りたいという願い、復興に向けての意志をみんなで共有していくことを目指し、三陸沿岸地域とつながる、そこに暮らす人々の思いとつながる、施設を訪れる多くの人々とつながる展示を工夫する。

- 三陸沿岸被災地の震災伝承・観光のインデックス機能を担い、各地へと誘う展示。
- 復興に向かって歩み続ける地域と連動して成長する展示。
- 震災を経験した人々の視点や思いを大切にできる展示。県民が参加できる展示づくり。
- 来館者の被災地への思いや絆を結ぶ心をかたちにして残すことができる展示。



写真は震災伝承館より引用



### 実相を浮彫にするために IT が生み出した資源を活かす展示

東日本大震災は、写真や映像等の記録が最も多く残された災害といわれている。IT や SNS の発達・普及は未知の可能性を秘めるビッグデータを形成。展示計画では、実物資料をはじめとした従来の資源はもちろんのこと、こうした今日のリソースも積極的に活用。従来の資源だけでは見せることのできない震災の様々な姿を浮き彫りにする展示を目指す。

- 個人が撮影した画像、衛星画像、特殊カメラ画像など多様な画像を活用した展示。
- ツイッター等の SNS が生み出した言葉資源を活用した展示。
- 東日本大震災に係るビッグデータを活用した展示。



写真3枚は震災伝承館より引用

## 2 展示にあたっての視点

展示素材（写真、映像、証言、報道、データ等）が発するリアルなメッセージを引き出すために、以下のような視点から展示化を推進する。

### 視点 色々な視点から捉える

全体像を俯瞰する空からの視点や、起こっていることの詳細を見せる現場からの視点など、事象ごとに適切な視点を選択して伝える。

### 思い 経験や思いを見えるかたちにする

個人的な経験や想いを、証言、絵、展示づくりへの県民参加等を通じて見えるかたちにする。

### 事実 リアルな資料・エピソードを積極的に取り入れる

想像を超える震災の事実の持つインパクト、複雑さ、深さを発信することができる実物、エピソードを積極的に導入。

### 時間 時間経過とそれともなう変化を通じて浮き彫りにする

現場や当事者の時間感覚を共有してもらう事で、震災被害に対する理解を深めてもらう。

### 現場 臨場感を醸成する

本物の素材を活用し、現場に身を置いているかのような臨場感を醸成。自分に引き寄せてリアルに感じられるようにする。

### 現在 生きている展示復興の今 = ライブを見せる

震災は終わっていない。復興の歩みのまったただ中にある被災地の今をありのまま伝える。

# 4. 展示ストーリー

## 1. 導入展示

ありし日の三陸の大地・被災後の三陸の大地



写真はJAXAより引用

## 2. 事実を知る

その時何が起ったのか



写真は震災伝承館より引用

## 3. 教訓を学ぶ

人びとはどのように行動したか



写真は震災伝承館より引用

## 4. 復興を共に進める

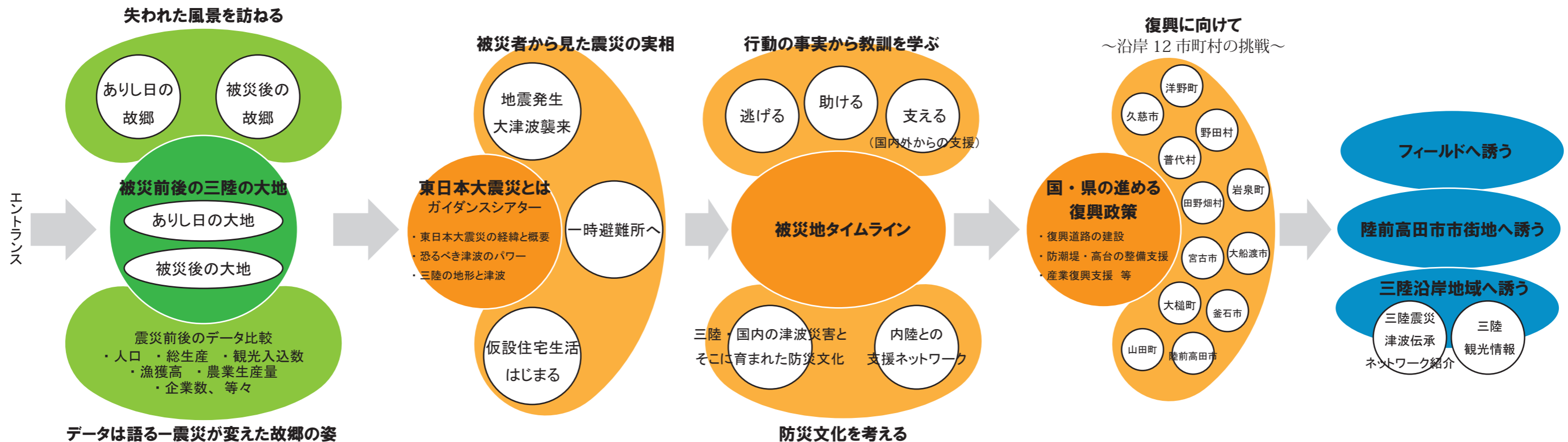
復興への意志、願い、足跡、絆づくり



写真は震災伝承館より引用

## 5. 地域と交流する

三陸沿岸地域へと誘う



データは語る—震災が変えた故郷の姿

震災前と震災後の三陸の大地の衛星画像を並列させて床面いっぱいに展開。東日本大震災の圧倒的事実を訴える。企画展の場としても活用。  
東日本大震災によって失われてしまった町並みやくらしの風景、被災した故郷の様子を、写真・動画等で紹介。写真や動画等は、広く県民から募るものとする。また、各種数字データから、震災が地域をどう変えてしまったのかを探る場も設ける。

東日本大震災の概要を分かりやすく紹介するガイダンスシアターを設置。また、被災地で何が起ったのかを、発災してから時間軸にそって辿る展示を展開。写真、映像、モノ、証言等多様な資料を駆使して震災の実相を浮き彫りにする。

「逃げる」「助ける」「支える」の3つの行動の事実から、教訓を導き出して伝える。また、発災を受けて多様な主体が各所で立ち上がり救助活動等に動き出した全体像を概観できる場を設ける。さらには、古くから結ばれてきた遠野市との支援ネットワーク、三陸に育まれてきた防災文化や国内外から寄せられた支援についても紹介。

国・県・市の復興政策、復興への取組について分かりやすく解説。復興庁や県が進めている復興事業を紹介するとともに、三陸沿岸の12市町村をとりあげ、それぞれの復興ビジョン、復興の歩み、現状等を伝える。復興の進捗にともなって、更新できる展示システムとする。

周囲のフィールド、陸前高田市、そして南三陸から八戸までを結ぶ三陸ラインを構成する各市町村へと誘う展示を展開。各地の震災伝承施設、震災遺構をはじめ、ジオパークやその他観光情報を発信する。

# 5. 各ゾーンにおける展示構成

ゾーン1 導入展示 東日本大震災の圧倒的な事実を伝える		
展示項目	展示情報	展示手法 (例)
<p><b>■ 失われた風景を訪ねる</b></p> <p>震災前の故郷の姿、失われてしまった故郷の風景を伝えるとともに、それらと対比させるかたちで震災後間もない故郷の姿も伝える。</p>	<p><b>ありし日の故郷</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常のくらしの風景</li> <li>・祭、イベントの風景</li> <li>・名勝の風景、等</li> </ul> <p><b>被災後の故郷</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災後間もない故郷の姿 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型インタラクティブスクリーン</li> <li>・被災前の故郷の写真</li> <li>・被災後間もない故郷の写真</li> </ul> <p>※写真収集にあたっては、広く県民の協力を仰ぐものとする。</p>
<p><b>■ 被災前後の三陸の大地</b></p> <p>衛星から撮影した被災前と被災後の三陸の大地を示し、空からの視点、客観的な視点で東日本大震災の圧倒的な大きさを感じてもらおう。</p>	<p><b>ありし日の大地</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災前の三陸地域衛星写真</li> </ul> <p><b>被災後の大地</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災後の三陸地域衛星写真</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三陸沿岸の衛星写真を床面に展開 (縮尺は 1/10000 ~ 1/15000)</li> </ul>
<p><b>■ データは語る - 震災が変えた故郷の姿</b></p> <p>数字データで震災の爪痕を浮き彫りにする。人口をはじめ、総生産高、漁獲高等の震災前後のデータを比較し、震災が被災地をどうかえてしまったのかを伝える。</p>	<p><b>震災前後のデータ比較</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口・総生産</li> <li>・観光入込数・漁獲高</li> <li>・農業生産量・企業数 等々</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電光掲示板</li> <li>・写真・解説文、等</li> </ul>

ゾーン2 事実を知る 東日本大震災の実相をリアルに伝える		
展示項目	展示情報	展示手法 (例)
<p><b>■ 東日本大震災とは</b></p> <p>三陸地域を襲った東日本大震災の経緯、全体像、そして被害の実相などをリアルに、そして、誰にも分かりやすく伝える。</p>	<p><b>東日本大震災とは</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災の経緯と概要</li> <li>・恐るべき津波のパワー</li> <li>・三陸の地形と津波、等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンスシアター</li> </ul>
<p><b>■ 被災者から見た震災の実相</b></p> <p>被災地で何が起こったのか、その実相を被災者の視点にたって紐解いていく。被災者の方々が辿った発災してからの道のりを時間軸にそってゆるやかに辿る。</p>	<p><b>地震発生 大津波襲来</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震、そして津波襲来</li> <li>・カメラがとらえた津波の姿</li> <li>・被災まもないまちを歩く</li> <li>・被災者が語る津波の姿</li> <li>・巨大津波の脅威</li> <li>・その時、私は・・・</li> <li>・世間がとらえた 3.11、等</li> </ul> <p><b>一時避難所へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所での生活</li> <li>・救助活動つづく</li> <li>・家族を探す</li> <li>・救援物資続々</li> <li>・等</li> </ul> <p><b>仮設住宅生活はじまる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設住宅の整備</li> <li>・瓦礫撤去</li> <li>・壊された日常生活</li> <li>・押し寄せる様々な問題</li> <li>・生活再建に向けて、等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像、写真</li> <li>・実物展示</li> <li>・造形再現</li> <li>・証言</li> <li>・ツイッター、ビッグデータ</li> <li>・被災者の軌跡を辿るメディアテーブル、等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キューブ・シアター</li> <li>・360度視野角特殊画像</li> </ul>

ゾーン3 教訓を学ぶ 行動の事実を通じて、後世に伝えるべき教訓を浮きぼりにする		
展示項目	展示情報	展示手法 (例)
<p><b>■ 行動の事実から教訓を学ぶ</b></p> <p>東日本大震災の経験、「逃げる」「助ける」「支える」の行動の事実から学んだ教訓の数々を集約して伝える。</p>	<p><b>逃げる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「逃げる」に係る教訓</li> </ul> <p><b>助ける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「助ける」に係る教訓</li> </ul> <p><b>支える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「支える」に係る教訓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・証言、データ 等</li> <li>・使用された道具、制服等実物</li> <li>・災害対策室 (部分移築)</li> <li>・映像演出</li> <li>・写真・解説文、等</li> </ul>
<p><b>■ 被災地タイムライン</b></p> <p>未曾有の災害を目の当たりにし、多様な主体が各所で救助に立ち上がり行動を開始した。その全体像を時間軸にそって概観する。</p>	<p><b>被災地タイムライン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛隊、消防隊、警察、東北地方整備局、建設業界、米軍、その他民間企業等の救助活動の経緯</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブル型立体年表</li> <li>・新聞記事、写真、映像、造形、音声、実物 等</li> <li>・解説文、等</li> </ul>
<p><b>■ 防災文化を考える</b></p> <p>繰り返し津波が襲来した三陸地域に育まれてきた防災文化、古くから結ばれてきた内陸との防災ネットワークなどを紹介する。</p>	<p><b>三陸・国内の津波災害とそこに育まれた防災文化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域につたわる教え・石碑</li> <li>・乗り越えてきた歴史、等</li> </ul> <p><b>内陸との支援ネットワーク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠野市とのネットワーク、等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石碑や津波の記録</li> <li>・地域に伝わる「つなみでんでんこ」などの教えの言葉</li> <li>・紙芝居、津波カルタ 等</li> <li>・写真・解説文、等</li> </ul>

ゾーン4 復興を共に進める 復興へ向かうそれぞれの挑戦、思い、取組の現状を発信する		
展示項目	展示情報	展示手法 (例)
<p><b>■ 国・県の進める復興政策</b></p> <p>国や県が進めている復興政策の主旨やその全体像、スケジュールなどについて分かりやすく解説する。</p>	<p><b>国・県の進める復興政策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興道路の建設</li> <li>・防潮堤・高台の整備支援</li> <li>・産業復興支援 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像装置</li> <li>・写真・解説文、等</li> </ul>
<p><b>■ 復興に向けて～沿岸 12 市町村の挑戦～</b></p> <p>三陸沿岸の 12 市町村のビジョン・取組、現在の復興状況等について紹介する。</p>	<p><b>沿岸 12 市町村の挑戦</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興ビジョン・町づくり計画</li> <li>・産業復興への取組</li> <li>・市長・町長・村長の夢</li> <li>・復興定点観測</li> <li>・現在の復興状況、等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真・解説文</li> <li>・定点観測写真 / 映像装置 等</li> </ul>

ゾーン5 地域と交流する 祈念公園内のフィールド、陸前高田の市街地、三陸沿岸の各市町村へと誘う		
展示項目	展示情報	展示手法 (例)
<p><b>■ フィールドへ誘う</b></p> <p>本施設が立地する「高田松原津波復興祈念公園」のフィールドへと誘うための情報提供を行う。</p>	<p><b>フィールドへ誘う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・祈念公園の主旨紹介</li> <li>・全体マップ</li> <li>・園内施設、遺構等紹介、等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘いメディアテーブル</li> <li>・マップ</li> <li>・ポスター</li> </ul>
<p><b>■ 陸前高田市市街地へ誘う</b></p> <p>地元陸前高田市の市街地へと誘うための情報提供を行う。</p>	<p><b>陸前高田市市街地へ誘う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸前高田市沿革紹介</li> <li>・全体マップ</li> <li>・観光情報、等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像</li> <li>・写真・解説文、等</li> </ul>
<p><b>■ 三陸沿岸地域へ誘う</b></p> <p>三陸沿岸各地の震災伝承施設等や観光スポットへ誘う。ための情報提供を行う。</p>	<p><b>三陸沿岸地域へ誘う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三陸震災津波伝承ネットワーク紹介</li> <li>・三陸観光情報、等</li> </ul>	

# 6. ゾーン1 「導入展示」の展示イメージ

ありし日の大地・傷ついた大地。床面に広がる衛星画像で圧倒的な事実をメッセージ。

## ■ゾーンの目的

- ・震災前の故郷の姿、失われてしまった故郷の風景を伝える。
- ・空からの視点・客観的な眼で東日本大震災の圧倒的な大きさを捉えてもらう。

## ■展示にあたっての留意点

- ・震災によって失われてしまった故郷の歴史・文化・くらしの風景を紹介するだけに留まらず、繰り返し襲来した津波を乗り越え、そこにしっかりと生きてきた三陸の人々の姿を感じてもらう。
- ・衛星画像や数字など、客観的事実を通じた表現を重視する。

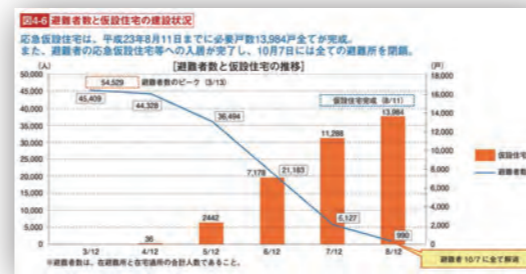
## ■展開イメージ

### ありし日の大地・被災後の大地

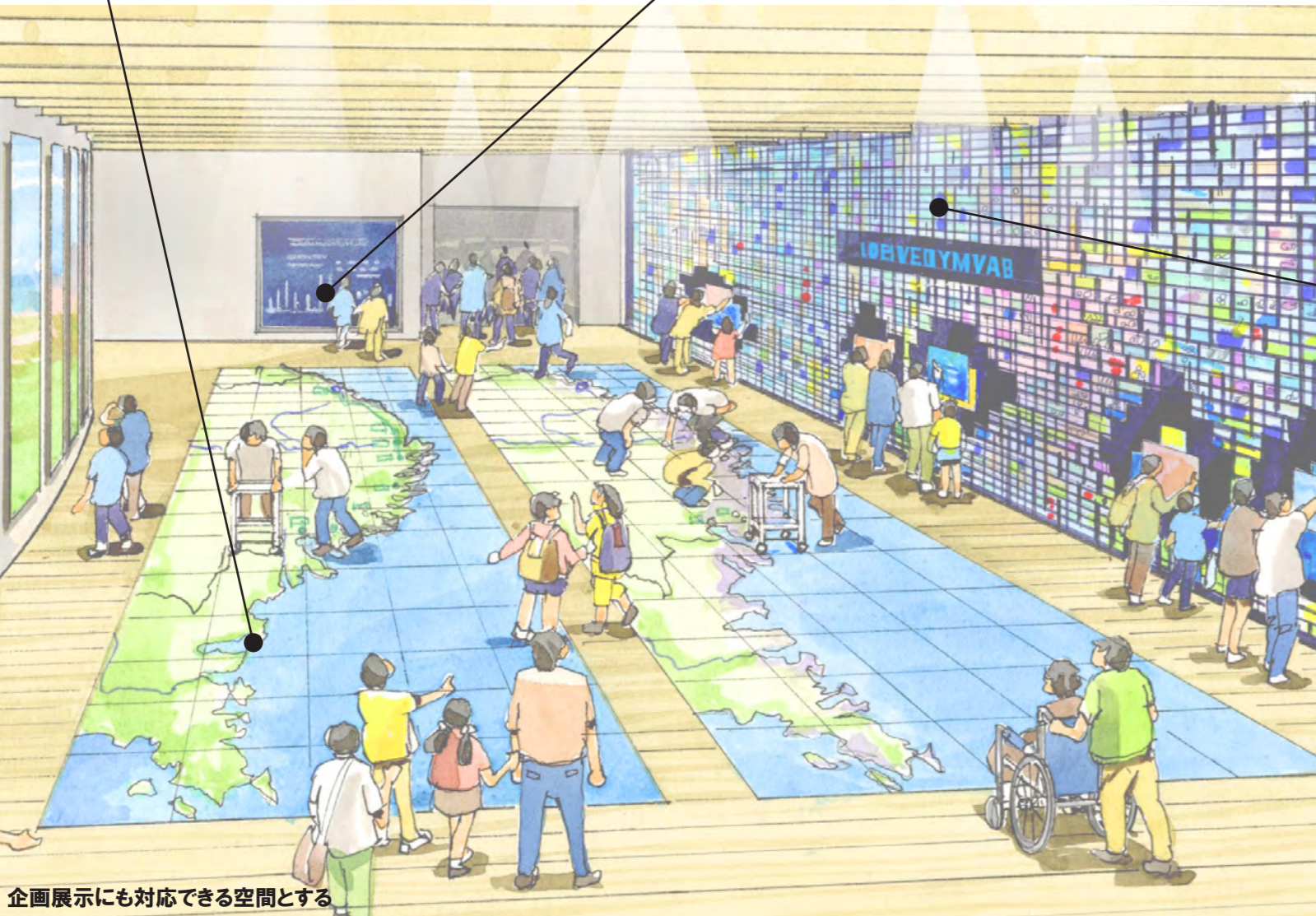
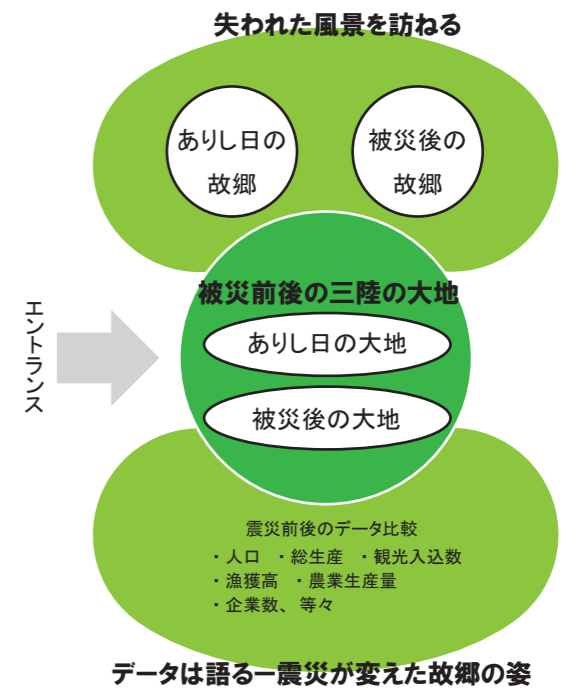
床面に被災前と被災後の三陸沿岸地域の衛星写真を1/10000～1/15000という、拡大鏡等を使いながら自分の知っているところを見つけられるスケールで展開。

### データは語る - 震災が変えた故郷の姿

震災後と震災前のデータを比較。人口や観光入込数、漁獲高、農業生産量などの推移から、震災が被災地をどう変えてしまったのかを伝える。



## ■展示の構成



企画展示にも対応できる空間とする

### 失われた風景を訪ねる

- 被災前のありし日の故郷の姿を伝える写真群と被災後の変わり果てた故郷の姿を伝える写真群の2種類の写真で構成。
- プログラムによって多様な展開が可能。例えば、
  - ・撮影日時、撮影場所、祭などの特定の行事などのカテゴリーを設けて写真を呼び出すことができるようにする。
  - ・同じ場所を、被災前と被災後で比較する。
  - ・自動演出モードを設定して、各市町村毎の四季の風景を描き出す。等々、様々な展開が可能。
- 待機画面で、「私たちは忘れない」のメッセージと、それに賛同した来館者たちのアクションを蓄積していくという演出を行うことも一考である。
- 豊かな海の恵みとともに生きてきた姿など、繰り返す津波の襲来を乗り越えながらそこに力強く生き続けている人々の姿を紹介するモードも設けることも検討。
- 写真は、県民の協力のもと収集することが考えられる。

ありし日の故郷写真



被災後の故郷写真

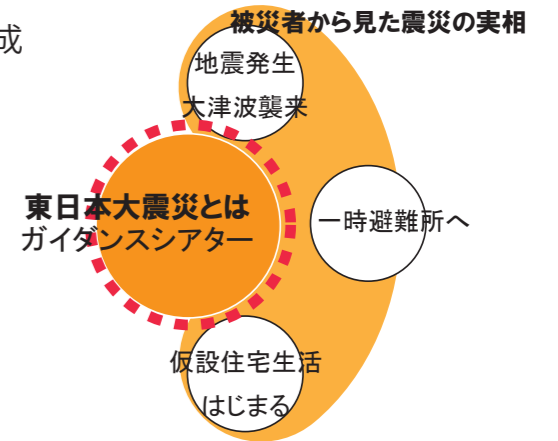


※写真6枚はYahoo! JAPAN東日本大震災写真保存プロジェクトより引用

# 7. ゾーン2 「事実を知る」の展示イメージ①

東日本大震災を、誰にも分かりやすく、そしてリアルに伝える二つの映像シアター。

■展示の構成



## ■展示の目的

- ・二つの映像シアターを設置し、三陸地域を襲った東日本大震災の実相をリアルに伝える。

## ■展示にあたっての留意点

- ・「ガイダンスシアター」：東日本大震災をまったく知らない人でも理解できるような分かりやすい内容とし、多数の映像記録や写真画像を活用して構成する。
- ・「キューブ・シアター」：被災直後のまちにあたかも身をおいているかのような映像体験を提供する。

## ■展開イメージ

### 東日本大震災とは ～ガイダンス・シアター～

東日本大震災とはいったいどのような震災であったのかを、誰にも分かりやすく伝えるガイダンス・シアター。震災の経緯だけでなく、被害の状況、リアス式海岸における被災の特徴、科学的視点からの解説、被災者の証言など、多角的な視点からひも解く。また、本施設が立地する陸前高田の被災前の姿を紹介するとともに、この地の被災時の状況を紹介します。その流れの最後にスクリーンそのものを開口し、被災前の姿が被災後どう変わったのかを、ガラス越しにタピックの実際を見てもらうことで印象付ける演出を加える。

さらに、シアター空間は、研修等別の用途にも使用できるようにすることも検討。



※津波映像の写真は震災伝承館より引用

演出の最後にスクリーンが開口し、窓越しにタピック45に注目させる演出を行う。



※タピック45の写真は震災伝承館より引用

### <コンテンツ展開例>



※写真2枚は震災伝承館より引用

### 被災まもないまちを歩く ～キューブシアター～

津波に襲われてまもない瓦礫に埋もれたまちを、360度の視野角を持つ特殊カメラで撮影した映像で紹介。没入感のある映像空間の中で、あたかもそこに身を置いて移動しているかのような映像体験を提供。津波の破壊力・凄まじさを肌で感じてもらう。



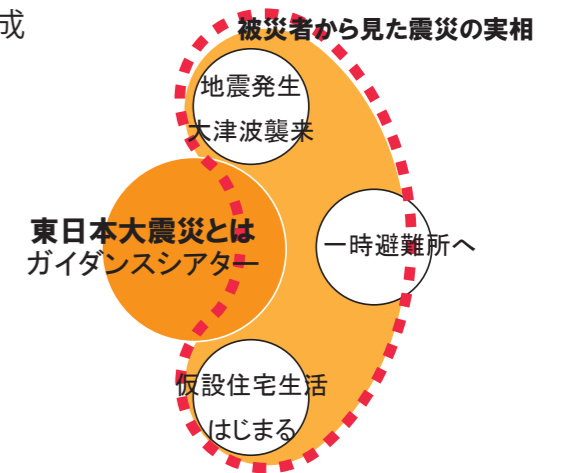
※写真は全て震災伝承館より引用



# 7. ゾーン2 「事実を知る」の展示イメージ②

写真、映像、モノ、証言、ツイッター、ニュース映像、新聞・雑誌など多様な資料を駆使して、東日本大震災の実相を描き出す。

## ■展示の構成



### ■ゾーンの目的

- 被災者の方々が辿った発災してからの道のりを時間軸にそってゆるやかに辿る。

### ■展示にあたっての留意点

- 写真、映像、モノ、証言、ツイッターの言葉、報道記録など、多様な資料を駆使して当時の状況をリアルに描き出す。
- 大津波の脅威、避難時の状況、被災によって失われたものの大きさ、新たに抱え込むことになった様々な問題など、被災するということの深刻な実態を、被災者の視点にたって伝える。

## ■展開イメージ

### その時、何が起こったのか ～地震発生 大津波襲来～

被災時、そして被災直後の状況を、映像、写真、実物、証言、ツイッター、ビッグデータ等多彩なリソースを活用して描き出す。想像を超える震災の実相、大津波の脅威を伝える。



### ■「あの日、私は・・・」証言テーブル

被災時、どこで何をしていたのか、津波の襲来をどう知ったのか、そして、何を思いどう逃げたのか。被災者の証言をベースに地図情報とともに伝える。



※図は岩手県HPより引用



※写真2枚は東北地方整備局震災モニュメントリストより引用



### その時、何が起こったのか ～一時避難所へ～

津波によって帰る場所を失った多くの被災者たち。着の身着のまま身を寄せた一時避難場では、何を思い、どのような生活をしていたのか。食料の調達、家族をどう探したのかなど、避難所での暮らしを伝えるとともに、この時期、被災地ではどのような状況であったのかを伝える。写真・映像・実物に加え、伝言板や物資の山などの環境再現等の手法も取り入れる。



※写真2枚は震災伝承館より引用

### その時、何が起こったのか ～仮設住宅生活はじまる～

仮設住宅が設置され、住居を失った被災者たちがそこで生活をはじめます。住居を失った世帯はどのくらいあったのか、コミュニティの問題、職の問題、心の病など被災者が抱え込むことになった様々な問題の実態を伝え、震災はその時だけでなく、人々を長期間苦しめることを知ってもらう。また、復興酒場やコミュニティカフェなど、前進するための様々な取り組みについても紹介。

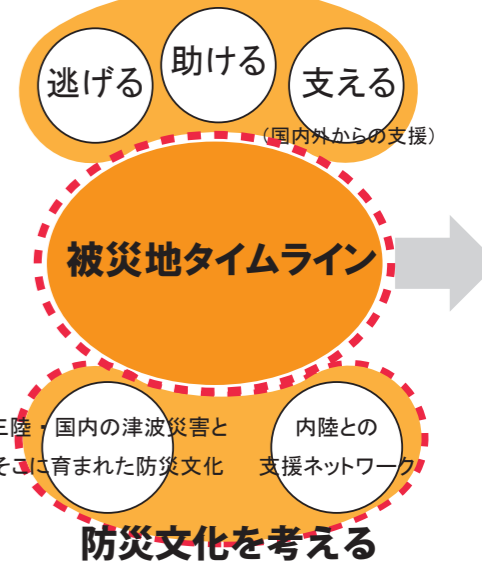


※写真6枚は震災伝承館より引用

# 8. ゾーン3 「教訓を学ぶ」の展示イメージ①

未曾有の災害にみまわれ、人々は何を思い、どう行動したのか。  
 行動の事実を通じて、後世に伝えるべき教訓を浮きぼりにします。

■展示の構成 行動の事実から教訓を学ぶ



■ゾーンの目的

- ・二度と同じような悲劇を繰り返さないために、東日本大震災の経験から得た教訓の数々を集約して伝える。
- ・繰り返し津波が襲来した三陸地域に育まれてきた防災文化を紹介する。

■展示にあたっての留意点

- ・被災時の様々な状況や立場からの教訓を、専門的な見地からの確かな裏付けを得たうえで、証言や具体的な事象を通じて分かりやすく伝える。
- ・調査・研究の成果が十分に蓄積されているとは限らないので、展示づくりを通じて教訓を掘り起こす。

■展開イメージ

被災地タイムライン

発災。人々はそれぞれの場所で立ち上がり動き出した。遠隔地からも被災地を目指した。自衛隊、消防隊、警察、東北地方整備局、建設業界、その他民間企業・・・、多様な主体による救助活動が展開された。こうした動きを時間軸にそって概観できる展示を目指す。新聞記事、映像、造形、音声、実物など、多様な展示資源を組み込んだ、テーブル上の年表的展開を想定。



※写真5枚は震災伝承館、図は遠野市後方支援活動検証記録誌より引用



防災文化を考える

三陸の津波災害史と地域に育まれてきた防災文化を伝える。先人の残した石碑や津波の記録、遠野を始めとする内陸とのネットワーク、また地域に伝わる「つなみでんでんこ」などの言葉、紙芝居、津波カルタなどの紹介。

紙しばいつなみ 作：田畑ヨシ



昭和8年三陸地震大津浪記念碑



※写真は津波石碑情報アーカイブ(国土交通省東北地方整備局道路部)より引用

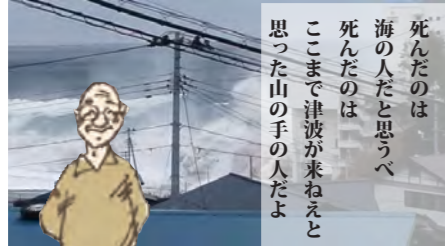
# 8. ゾーン3 「教訓を学ぶ」の展示イメージ②

## 行動の事実から教訓を学ぶ

「逃げる」「助ける」「支える」3つの視点から教訓を伝える。体験者の貴重な証言、使用された道具、データなどを活用。

### 逃げる

被災した方々から、体験を通じた教訓を語って頂くなど。



※写真は震災伝承館より引用

### 助ける

実際の救助活動から見てきた教訓。救助に使用された道具の紹介など



※左写真は震災伝承館、右写真は東北地方整備局震災モニュメントリストより引用

### 支える

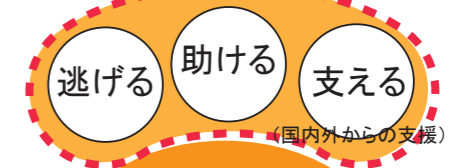
被災者の方々を側面から支援する様々な活動。全国・世界から寄せられた支援の手を紹介するとともに、何が一番必要だったのか、何が足りなかったのかについても検証。



※写真2枚は震災伝承館より引用

## ■展示の構成

### 行動の事実から教訓を学ぶ



### 被災地タイムライン

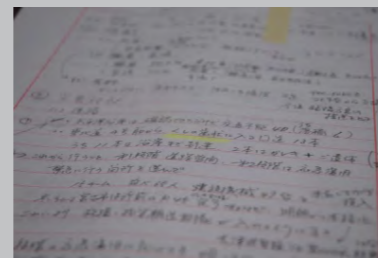
三陸・国内の津波災害とそこに育まれた防災文化  
内陸との支援ネットワーク

### 防災文化を考える

## ● 「災害対策室」の活用

「助ける」を構成する展示の一つとして、東日本大震災で実際に活用された「災害対策室」を活用することで、そこで展開された災害対策活動をリアルに伝え、そこから培った本物の教訓を発信する。

- 震災時の災害対応プロセスを追体験させる映像演出。
- 当日の状況を空間でも再現。(卓上のメモや白板など)
- 災害対策のロールプレイングなどのプログラム活動の舞台としても活用。



当日のメモ

※上写真は震災伝承館より引用

<演出例>

### 追体験型ソフト「命を救う道を啓ける！」

下のような震災当日の災害対策室の現場の様子を再現。そこでの出来事を追体験するかたちでリアルな救助の初動活動の様子及びそこから見えてくる被災の実態を伝える。前面モニター・スクリーンでは、当日と同じ映像を映しだしたり、立体音響で当日の部屋の緊張感漂う状況を再現したり、デスク上のメモ類や白板なども再現することが考えられる。



※上写真は震災伝承館より引用

#### 【ストーリー構成例】

- ・地震発生！ 災対室へ
- ・大津波警報
- ・「局長、ヘリを上げます」
- ・道路啓開？
- ・「くしの歯作成」始動
- ・前へ、つっこめ！
- ・「普通の瓦礫じゃないんです」
- ・啓開、続々
- ・テックフォース招集！
- ・命の16本、啓く



# 9. ゾーン4 「復興を共に進める」の展示イメージ

復興政策の全体像を分かりやすく解説。

復興の歩みの真っ只中にある沿岸12市町村それぞれの挑戦、思い、取組の現状を発信。

## ■展示の構成



### ■ゾーンの目的

- ・国や県が進めている復興政策の主旨やその全体像、スケジュールなどについて分かりやすく解説。
- ・三陸沿岸の12市町村のビジョン・取組、現在の復興状況等について紹介。

### ■展示にあたっての留意点

- ・復興の歩みに合わせて展示を更新できるシステムを工夫し、リアルタイム情報を提供する。

## ■展開イメージ

### 復興に向かって～沿岸12市町村の挑戦～

三陸沿岸12市町村の、それぞれの復興を目指した取り組み・挑戦をアピール。東日本大震災の被災地がどのように復興してゆくのかは、世界中の注目するところとなっていることから、復興へ向けての強い意志、夢、挑戦を、それぞれの地域毎に発信。復興の進捗に合わせて展示更新し、リアルタイムの復興状況を紹介できるシステムを検討する。



※写真2枚は岩手県HP、図は陸前高田市HPより引用

### ■復興・定点観測

変化してゆく復興地を定期的に撮影・記録している取り組みがある。その記録画像を活用させて頂き、復興の歩みを可視化して紹介することも一考である。



※写真3枚は復興庁HPより引用

### 国・県の進める復興政策

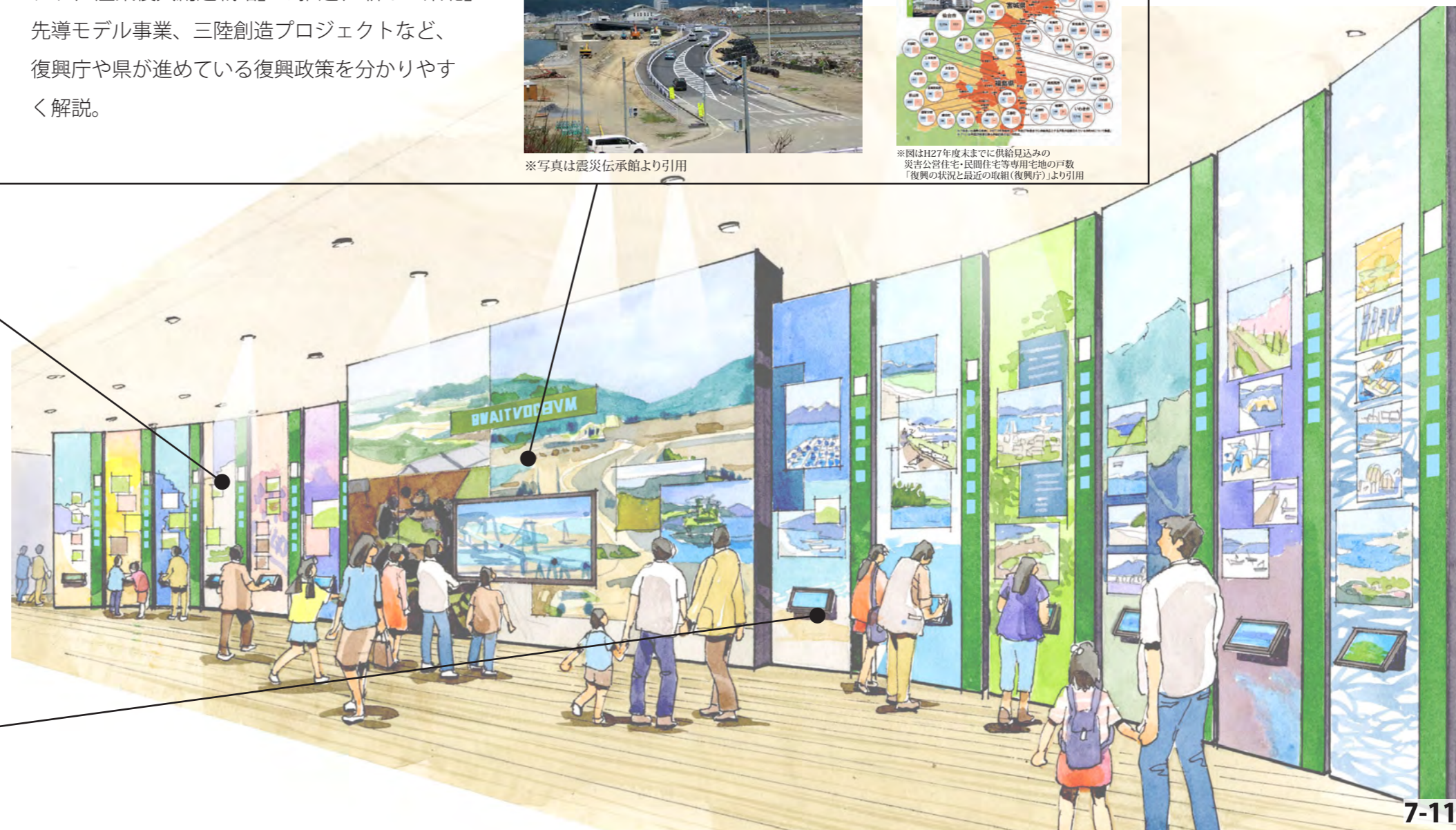
三陸沿岸道路の延伸事業、「健康・生活に関する総合対策」の推進、住宅再建・まちづくりプロジェクト、「産業復興創造戦略」の推進、「新しい東北」先導モデル事業、三陸創造プロジェクトなど、復興庁や県が進めている復興政策を分かりやすく解説。



※写真は震災伝承館より引用



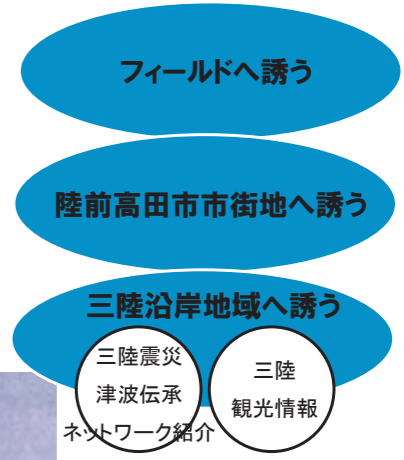
※図は27年度末までに供給見込みの災害公営住宅・民間住宅等専用宅地の戸数「復興の状況と最近の取組(復興庁)」より引用



# 10. ゾーン5 「地域と交流する」の展示イメージ

ゲートウェイとして、祈念公園内のフィールドへ、陸前高田の市街地へ、そして三陸沿岸の被災地・各市町村へと誘う展示と休憩機能が融合した空間。

■展示の構成



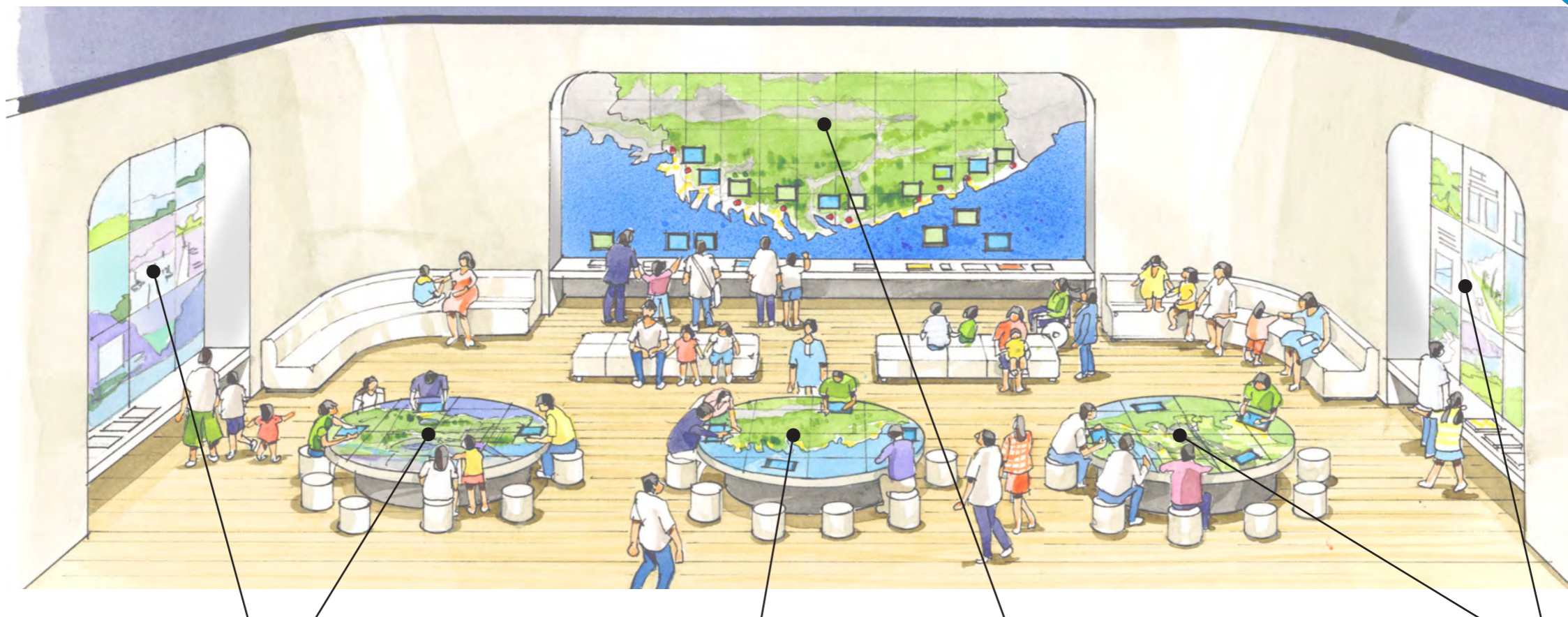
■ゾーンの目的

・祈念公園内のフィールド、陸前高田の市街地、三陸沿岸の各市町村へと誘う

■展示にあたっての留意点

- ・各エリアの震災関連の施設や見どころ、その他観光情報などを紹介する展示を展開する。
- ・ゆったりとくつろぎながら各エリアの情報を得ることができる空間とする。

■展示の展開



フィールドへ誘う

本施設が立地する「高田松原津波復興祈念公園」のフィールドへと誘う展示を行う。公園の全体マップや園内に点在する震災遺構、震災前の記憶をとどめるスポットなど、見どころを紹介。震災前の姿なども紹介しながら利用者の興味関心を引き出し、フィールド散策へのモチベーションを高める。



奇跡の一本松 気仙大橋 定住促進住宅 旧道の駅

※写真4枚は震災伝承館より引用

三陸沿岸地域へ誘う

東京方面から見た時、陸前高田市は岩手県三陸沿岸地域の玄関口に位置する。ここでは三陸沿岸被災各地に点在する震災遺構、震災伝承施設等の情報提供を行うとともに、ジオパーク、観光スポット、特産物、及び祭等のイベント情報などを紹介し、三陸地域へと誘う。



浄土ヶ浜 大船渡市おさかなセンター 龍泉洞

※写真3枚は岩手県観光ポータルサイト「いわての旅」より引用

陸前高田の市街地へ誘う

本施設に訪れた利用者を地元陸前高田市の市街地へと誘導することも本施設の大きな使命である。復興まちづくりのコンセプトやアピールポイント、地図情報などを発信するとともに、観光スポット、散策ルート、飲食物販施設、特産品等、陸前高田の魅力を紹介。



陸前高田市市街地

※図は陸前高田市HPより引用

# 1 1. 屋外展示について

公園内の震災遺構、屋外に設置する被災物を、震災を物語る貴重な実物展示として活用します。

## ■展示の主旨

祈念公園内には、被災した建造物や構造物、松林の残存物など震災の爪痕を残す遺構が多数残されている。被災した場所で被災した状況をそのままに残す震災遺構は、震災伝承において最も雄弁な実物資料であり、震災の脅威をリアルに物語り続けられる貴重な展示物といえる。このような屋外にある震災遺構を震災津波伝承施設の屋外展示として、保存・活用していくことを検討するものとする。

## ■対象とする遺構・遺物(候補)について

### ◎ 公園内に存在する震災遺構

- ・ 建築物：タピック 45、下宿定住促進住宅、気仙中学校、ユースホステル
- ・ 市街地関連施設：市道跡、JR 踏切跡
- ・ マツ関連：奇跡の一本松、被災マツの根株
- ・ その他復興関連：ベルコンの基礎等
- ・ 屋外に設置し公開する被災物

## ■震災津波伝承施設との連携等のあり方・方法等について

- ・ 生きた教材として震災遺構を見学してもらい、語り部による案内や、震災津波の伝習・学習スポットとして整備すること等が考えられる。
- ・ 津波復興祈念公園へと誘う展示を設けるとともに、園内を巡るツアープログラムの企画・実施等が考えられる。

<高田松原津波復興祈念公園内の主な震災遺構のイメージ(関係機関で協議調整中)>



図は「空間デザイン検討委員会の検討状況(第2回高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会資料・平成27年12月15日)のP2-3.検討状況(2)震災遺構について(案)より引用

# 1 1. 屋外展示について

## ■保存・活用・管理のあり方・方法等について

### 震災の記憶を物語る展示物として活用

### 震災学習フィールドツアーの見学サイトとして活用

- ・震災遺構、被災物の保存方法は、基本的に「存置」とし、見学に供することができる範囲で活用することが考えられる。
- ・利用者の安全確保の観点から、基本的には震災遺構の内部には人を入れないで、周囲から見学してもらうことが考えられる。
- ・建物の内部の、散乱した瓦礫や破壊された床・壁などは、撤去してしまうと津波の脅威が伝わりにくくなるので、可能であればそのままの状態でも放置することも考えられる。
- ・窓や入口が破壊されて開口したままになっているので、人が勝手に侵入しないようにするための工夫や、鳥害・虫害等の対策などが課題として考えられる。

解説の方法としては、大きく以下の二つが考えられる。

- ① 解説パネルを設置する。
- ② ITを活用した解説サービスを行う。

### <保存・見学形態の事例>

#### □ 木籠水没家屋

(新潟県長岡市山古志)

#### 存置 / 橋から自由見学

- ・中越大震災の際に起きた河道閉塞のため土砂に埋もれた住宅「水没家屋」を存置している状態（何年か後には土砂に埋まる）。
- ・橋から自由に見学が可能。
- ・水没住宅を見渡せる駐車場の脇にある「郷見庵」を集落住民等で運営。



#### □ 土石流被災家屋保存公園

(長崎県南島原市)

#### 保存 / 柵越しに自由見学

- ・普賢岳噴火の被害に遭った被災家屋 11 棟を当時の状況のまま保存 (1 棟は移築)。
- ・公園として整備し無料公開、自由に見学が可能。
- ※屋外保存家屋は 24 時間見学可能、テント内保存家屋は 9 時～17 時開館
- ・公園は道の駅に隣接し、一体的に管理されている。



※写真は道の駅みずなし本陣HPより引用

#### □ 原爆ドーム

(広島県広島市)

#### 永久保存 / 柵越しに自由見学

- ・原爆投下により廃墟となったドームの保存。
- ・1966年に永久保存を決定、広く募金を呼びかけ、これまで3度目の保存工事が行われた(2012年3月現在)。
- ・周囲を柵で囲い、一般の立ち入りは禁止。柵の外からはいつでも見学が可能。



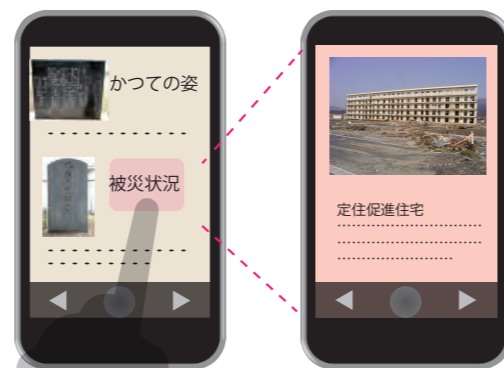
※写真は広島市提供

### <スマートフォンを活用した解説サービスのイメージ>

無料の解説アプリをダウンロードしてもらうことで、各遺構の解説サービスを提供することが可能。被災前の姿や風景を呼び出したり、被災状況を解説するなど、工夫しだいで様々な展開が可能。



※写真は震災伝承館より引用



### 例) 平泉町と岩手県立大学の共同研究として実施「平泉ポータブル観光ガイド」



案内板に設置されたQRコードや携帯電話のGPSによって、観光客は訪問した観光スポットの詳細情報をユニバーサルデザインに配慮した形で受信。

※図は「平泉ポータブル観光ガイド」より引用